



カラーでご覧になりたい方は、錦小HP「学校だより」<http://www.ueis.ed.jp/school/nishiki/>までHPでは、学校だよりで紹介できなかった写真も掲載しておりますので、ぜひご覧ください。

## 手洗いの大切さに気付こう！！～保健委員会の活動～

1月26日（火）、朝の学習の時間、保健委員会の児童が2～3名に分かれて各教室に向かい、簡単な紙芝居で手洗いの仕方について説明を行いました。

保健委員会の児童は、マスクをきちんと着用し、教室の前の方に座っている児童との距離をしっかりと取りながら、感染防止に十分に配慮して活動しました。

紙芝居では、手洗いをすることによって、どれだけの細菌やウイルスが減るのか、効果的な手洗いの仕方はどのようにするのかについて、写真や絵で分かりやすく説明がなされました。手についた約100万個のウイルスでも、せっけんを使い、しっかりと2回洗うと、ほとんどのウイルスを洗い流せるそうです。

説明を聞いていた児童達は、改めて手洗いの大切さや適切な手洗いの仕方について理解を深め、実践への意欲をさらに高めることができました。

学校では、引き続き、手洗いやマスク着用、ソーシャル・ディスタンスの確保等、新型コロナウイルス感染症予防のための取組、児童への指導を行ってまいります。

ご家庭でも、児童がしっかりと手洗いをして、新型コロナウイルス感染症やインフルエンザ、風邪などの罹患を防ぐことができるよう、ご指導をどうぞよろしくお願いいたします。



## パラリンピック選手との交流 ～4年総合的な学習～

4年生の総合的な学習の時間（にしきタイム）では、現在、「心を伝え合おう」という単元で、現代的な課題である『福祉・健康』をテーマとした学習を行っています。

1月12日（火）には、北京、ロンドンパラリンピック『シットィングバレーボール』日本代表の金田典子さんをお招きして、講話と体験活動を行いました。

最初の講話では、小・中・高校とバレーボール一筋で活躍し、実業団の名門、日立製作所でロサンゼルスオリンピックを目指しながらも、病気で車椅子生活になってしまったつらい体験や全日本監督で元同僚の中田久美さんから紹介された、シットィングバレーボールとの出会いやあきらめない気持ちの大切さについてのお話がありました。

また、パラリンピックで出会った他国の選手との話から、何不自由のない恵まれた日本で生活することのありがたさなど、貴重なお話をいただきました。

講話の後は、シットィングバレーボールの体験活動をさせていただき、児童達も競技の楽しさ、難しさを体験することができました。お別れには、記念として4年の各学級に一つずつボールをいただきました。金田様には、寒い中、お越し下さり、心より感謝を申し上げます。



# おじゃまします！！教室訪問 ～6の0～

第11回目は、6年0組を訪問しました。担任は、T先生です。理科の時間にお邪魔しました。

本時は、「てこのはたらき」という単元（学習のまとめ）の第2時間目で、『てこにおいて重いものを小さな力で持ち上げるためには、支点から力点までの距離が長いほどよいことが分かる』をねらいとして行われました。

まず、授業の最初に、先生は、大型テレビを使い、前時に行った授業での児童の様子を写真を投影し、前時の学習内容を確認していきました。「これは、何をしているところでしょうか？」との問いかけに、児童達は、「木に打ち付けてあるくぎをバール（くぎ抜き）で抜いているところです。」「なかなか抜きにくいくぎもありました。」など、前時の学習内容を進んで振り返りながら、日常生活でもあり得る場面や道具について関心をもっていきました。先生は、「あの釘は、どうやって抜けばやりやすかったですか？」「小さな力で抜ければ楽ですね。」というように、児童に語り掛け、児童とのやりとりをしながら、「バールは、てこというしくみ、はたらきを利用した道具ですが、小さな力で楽に釘を抜く方法を考えていきましょう。」

「こうした理科の学習は、普段の生活とつながっていますね。学校の学びを実生活に結び付け、生かしていけるようにしましょう。」と児童に呼びかけ、「主体的な学び」につながる、実生活や実社会と自分の学習を結び付ける働きかけをよく行っていました。

次に、先生は、大きな粘土と小さな粘土、30cmのものさし、木片を提示し、「今日は、これらを使って実験をします。」と言い、黒板に図をかき、学習問題『大きい粘土を持ち上げるには、小さい粘土をどこに置けばよいでしょうか？』を黒板に書くとともに、その下に予想と考えた理由を書く欄も作り、児童に考えさせました。

児童達は、「距離が長ければ長いほどよいのではないか。」「自分も支える点から遠くなっているところが楽なのではないかと考えました。この前、バールを使って釘を抜いたときも近いところより遠いところを持ってやった時の方が楽でした。」というような予想を進んで発表しました。先生は、「そのように前の学習の結果などと関連付けて考えるのは素晴らしいですね。」と児童の発言のよさを取り上げ称賛し、児童達の学習意欲をさらに高めていました。

そうした予想を立てた後、いよいよ本時の学習活動の中心となる実験に入りました。先生は、できるだけ多くの児童が実験できるようにと、児童二人で一つずつの実験道具（粘土や木片）を用意しており、それを配っていました。

児童達は、隣同士のペアになって、大きな粘土を持ち上げるには、小さい粘土をどこに置けばよいか考えながら進んで実験に取り組みました。実験の後、児童達は、その結果をノートに書いていきました。

結果の発表では、「予想していたとおり、支点から遠く離れたところに小さい粘土を置いた方が重い粘土を持ち上げることができた。」という児童がほとんどで、予想したことをしっかりと確かめることができました。

最後の振り返りでは、「てこは、支点から力点までの距離が長ければ長いほど重いものを持ち上げられることが分かった。」「重いものを持ち上げるときなどに、てこをつかってみたいと思った。」「てこを使えば、どれくらいの重さまでが人間一人で持ち上げることができるのかが気になった。」などの気付きや感想が発表されました。授業全体をとおして、熱心に粘り強く学習に取り組む児童達の姿が大変印象的でした。

T先生は、体育が専門で、体育主任としても、運動会などの実施計画立案はもとより、準備や円滑な運営など、学校の体育的な行事の主務者として活躍しています。T先生とともに、6年0組の児童達がこれからもさらにぐんぐん力を付け、より一段と素晴らしい児童に育つことを大いに期待しています。



※ 読みやすさを考え、教員の呼称は、「教諭」ではなく、「先生」とさせていただきます。

※ 地域・ホームページ用の学校便りでは、不特定多数の方の目に触れることもあるため、教職員の名前は、イニシャルにし、顔写真は、カットしております。児童名は原則掲載しません。ご了承ください。